

消防署 だより

松前消防署 ☎ 984-3404

風水害に備える

風水害は、地震とは違い、事前に予報があり、対策を立てる余裕があるので、私たちの心構え一つで被害を少なくすることができます。

台風や豪雨などの風水害に備えて、日ごろから家や周囲の点検をして、必要な修理、補強をして、雨や風に対する万全の対策をしておきましょう。

風水害から身を守るためのポイント

▶ 普段からの準備

常に家の修繕と補強をしておきましょう。

- ① 雨どいや側溝は、常に水はけをよくしておく
- ② 瓦のずれや割れ、トタンのめくれなどは修繕しておく
- ③ ブロック塀は、崩れそうなところを柵や石積みで補強しておく
- ④ 家のまわりはいつも整理しておく

▶ 台風・豪雨が近づいてきたら

テレビ、ラジオで情報を聞き、次のように対処しましょう。

- ① ベランダの植木鉢、物干しざおなど、飛ばされやすいものは室内に入れておく
- ② 避難袋を身近な所において、いつでも避難できるようにしておく
- ③ 停電に備えてローソクや懐中電灯の用意をしておく
- ④ 浸水の恐れがあるときは、家財道具を高いところへ移動させる
- ⑤ 河川の増水は早いので、素早い判断と行動をとる

▶ 避難するとき

浸水や洪水などで危険を感じたら、または、町職員、消防職員、消防団員や警察官などから避難の指示が出

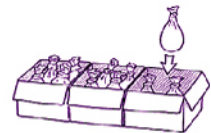
たら、すぐに避難するようにしましょう。

- ① 歩ける深さは男性で約 70 センチ、女性で約 50 センチくらいが限界。水深が腰まであるようなら無理せず、高所で救援を待つ
- ② 服装は、活動しやすく、保温性があり、防水効果のあるものにする
- ③ 裸足や長靴は厳禁。ひもでしめられる運動靴を履く
- ④ 子ども、高齢者や身体の不自由な人は、背負うなどして一緒に避難する。はぐれないようお互いの体をロープで結んでおくと、子ども連れでも安心です
- ⑤ 火の始末や戸締りを確実にする
- ⑥ 家族全員で隣近所と協力して避難する

簡易水防工法の例

これらの工法は、小規模な水災で水深の浅い初期の段階で行うものです。危険を感じる前に、早めに避難しましょう。

例1 ごみ袋による簡易水のう



40 リットル程度の容量のごみ袋を二重にして、半分の水を入れて閉め、これを段ボールに入れて連結して使用する

例2 プランターとレジャーシート



土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用する

例3 ポリタンクとレジャーシート



10 リットルまたは 20 リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み、連結して使用する

